

福井県民の将来ビジョン 地区別意見交換会

(奥越地区) 意見概要

[人づくり]

- 学力・体力全国トップクラスの維持やキャリア教育の推進により競争原理が働き、心の豊かさや郷土愛を育む教育とかみ合わないのではないかと危惧する。競争が教育の第一義ではなく、結果としてトップクラスであって欲しい。
- 競争社会で勝つ喜びを知ることも必要だが、挫折を経験することでさらに人間的に成長できる。
- 画一的なものでなく、地域性を活かした学力・体力の伸ばし方が必要。
- 人づくりは一朝一夕に行われるものではない。五感で感じたことなど、長年の日々の生活環境の中で培われたものが原動力になる。
- 習うための語学でなく、コミュニケーション手段として外国人による語学教育を進めるべき。特に今後成長が見込まれる中国、韓国など東アジアの言語が大事。
- 核家族化や共働き世帯の増加により家庭における子どもへのしつけが疎かになっている。地域で子どもを育てる仕組みが必要
- 例えば、上庄地区では、保育園から中学まで全く同じメンバーで過ごす。だから住みたいという人と住みたくない人に分かれる。

[元気なコミュニティづくり]

- 一旦県外へ出て戻ってきた人は、ふるさとに対して熱い思いがある。外に出ても戻ってきたいと思える地域づくりが必要。
- 国外、県外に出て初めて「ふるさと」を思う気持ちが生まれた。外へ出て学んだことやふるさとへの思いが、コミュニティやふるさとづくりの原動力になるのではないか。
- 共働きを支える女性の負担を軽減するために、男女共同参画を進める必要がある。
- コミュニティ維持のために地域の伝統文化や行事を引き継いでいくことが大事。
- 「生涯現役」を目指し伝承料理を伝える活動を行うなど元気な高齢者が活躍している。
- 独居老人が多く、孤独死の問題が生じている。

〔環境〕

- 小原ECOプロジェクトのような環境保全のビジネス化を支援する仕組みがあると良い。今残せば今後残せる環境が多くあるのではないか。
- 今ある亀山や弁天等の桜の名所を保存する政策を行って欲しい。そのためには、長期的な視点に立ったランドデザインが必要。
- サトイモの洗い機や用水の落差で発電ができないか。

〔まちづくり〕

- 恐竜博物館やゆめお一れ勝山の来館者数が増加しているが、中心市街地の商店の売上に結びついていない。相互の連携を図っていかなければならない。
- 大連寺川の河川改修事業が進めて、まちづくりも前に進めてほしい。
- 中小企業が減少し、経営者の子どもが店や会社を継がずにサラリーマンとなり、県外に流出していく。中小企業の減少抑止策が必要ではないか。

〔産業〕

- 奥越地域の物産が一堂に集まり購入できる「道の駅」のような施設が必要。
- 観光は一昔前の見物型から現在の体験型、今後は長期滞在の実践型に変わり、何処に行くかでなく、行った先で何をすることが重要視されるようになるだろう。
- 国の農業政策の変化が激しく対応できない。県でわかりやすくまとめて説明するなり、極端な変更を和らげることはできないか。規模拡大や低コスト化で後継者が農業を継ぐことが大事。

〔その他〕

- 世界の中の日本、日本の中の福井、福井の中の奥越の位置付けや果たすべき役割を明確にし、ビジョンに反映して欲しい。
- 「2030年の姿」を今回の将来ビジョンに反映させることが重要。
- 今回の将来ビジョンと市町の計画等との整合性を図って欲しい。